

## 東北地区大学図書館協議会グループ別情報交換会報告書【第2グループA】

### ◎テーマ「安全な図書館の作り方」

本グループでは、テーマに沿い、3項目について意見交換を行った。概要は下記のとおりである。

#### 『避難訓練等』

(現状)

- ・各館では、年1回は全学一斉による訓練を実施しており、図書館も参加している。図書館独自に避難訓練を実施している館はない。
- ・避難マニュアルは、一部の館で作成。避難誘導や安全確認をする職員の役割分担を決めている。
- ・授業時間に避難訓練を実施して実際の避難行動を検証している館もある。(対応策)
- ・図書館の勤務シフトにより職員の配置が少人数になるケースがあるので、この場合の対応も考慮する必要がある。
- ・地震対策にも関係するが、避難経路の確認や職員の役割分担、館内の危険箇所の把握、日常業務でできる防止策などを組織的に検討する必要がある。
- ・避難マニュアルや点検リストなどを作成した方がよい。

#### 『地震対策』

(現状)

- ・今回の大震災では、被害の程度の差はあるが、蔵書の落下や施設の被害を受けている。
- ・落下防止策として市販品(落下防止シート・ストッパーなど)を震災前から活用していたり、震災後検討している館が多かった。しかし、今回の震災による被害を検証すると、本の落下が防げた代わりに棚が落下したり、書架ごと倒壊するなど別の問題も発生した事例があった。逆に危険度を増しているという指摘がある。(対応策)
- ・各図書館の構造や書架の配置状況により、様々な状況が考えられるところだが、書架上部をあえて空けて本の落下をなくし、眊低限度必要な避難経路の確保を優先した事例は一つの予防策として効果があると考えられた。
- ・本の落下までの時間を稼ぎ、その間に安全な場所に避難誘導することが眊も有効ではないかという意見で概ね一致した。
- ・そのためには、避難誘導マニュアルの作成と合わせて、各館の状況に応じた落下防止策を検討することが効果的である。
- ・今回の被害状況の写真を添付した避難誘導指示を館内にポスター掲示して利用者に危険箇所の認識と避難意識を啓発することも有効。

## 『不審者対策』

### (現状)

- ・大学図書館の地域への解放が進み、公立図書館ほどではないが、学外者対策が必要となっている。
- ・セキュリティは、各大学の施設全体のものでカバーされているケースが多い。土日や夜間はカード入館になっており、一定の対策は取られている。
- ・一部の館では、特定のクレーマーに悩まされているが、多くの館は特に対策を施さねばならない状況にはない。
- ・クレームの一例としては、図書館の運営改善に意見を持つ者が、カウンター前で長時間にわたり主張する。納得がいかないと時に大声を上げる。アルコールが入っていると思われる例も。
- ・窓口は女性職員が多いこともあり、不安解消の対策が求められる。

### (対応策)

- ・上司が対応。できれば複数で対応。対応マニュアルの作成。
- ・入館拒否など毅然とした組織対応が必要。判断基準を検討する。
- ・さすまたなどの防犯器具の購入。
- ・護身術やクレーマー対策に関する学内外研修会を実施し、職員の対応力を向上させる。
- ・オートロックや防犯カメラの設置。警備員の配置。ただし、必然的にコストがかかる。

【報告：遠藤（宮城大）】